

## 令和6年度第4回狭山市地域公共交通活性化協議会 会議録

開催日時 令和7年2月3日（月）午後2時00分～午後3時30分  
開催場所 中央公民館第1ホール（狭山市市民交流センター3階）  
出席者 吉田敦委員（会長）、久保田委員（副会長）、関根康洋委員、関根肇委員（代理：金川様）、藤田委員、霜村委員、岩澤委員（代理：八木様）、中野委員、関口委員、吉田三男委員、栗原委員、佐藤委員、烏山委員、高橋委員、苅谷委員、小寺委員、平沼委員、古川委員（代理：村上様）、梅田委員、大石委員、村井委員、昔農委員、田中委員（23名）  
欠席者 6名（吉田樹委員、増田委員、坂井委員、北條委員、中寫委員、神田委員）  
代理出席者 3名  
事務局 田中市民部長、日出間交通防犯課公共交通担当課長、堀越主査

傍聴者数 10名

議題等

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議題

（1）狭山市地域公共交通計画（素案）に関する意見等の募集結果について

（2）ほりかねデマンドバスの評価検証（2年目）について

（3）堀兼地区デマンドバスの運行継続について

（4）狭山市地域公共交通計画（素案）の修正について

（5）その他

4. 閉会

## 会議の経過、質疑等の内容

### 1. 会長あいさつ

### 2. 会議の成立及び会議の公開の確認

委員総数29名のところ、委員本人の出席が20名、代理出席3名、合計23名が出席していることから、会議が成立していることを確認するとともに、本日の会議の議題は、非公開とする理由がないことから、原則どおり公開することが決定された。

以下、吉田会長が議長となり、議事を進行した。

## 協議事項（1）狭山市地域公共交通計画（素案）に関する意見等の募集結果について ＜概要＞

狭山市地域公共交通計画（素案）に関する意見等の募集結果について、資料に沿って説明を行った。

### ＜質疑＞

委員 運行ルートの見直し、1時間に1本程度の運行本数の増加、車両の小型化などの意見が多かった。これらは茶の花号に対しての意見だけではないように思う。意見を参考にすることだけでなく、具体性を持って対応していくことが必要になると思う。

事務局 今後、計画に位置づけた施策を推進していく中で、路線バスの維持・確保を中心に、茶の花号のあり方や、デマンドバスや自家用有償旅客運送などの導入検討など、市内公共交通の一体的な再編に向けて、分科会を開催しながら協議していきたいと考えている。

## 協議事項（2）ほりかねデマンドバスの評価検証（2年目）について

### ＜概要＞

ほりかねデマンドバスの評価検証（2年目）について、地域運営組織であるほりかねデマンド・ラボの会長より、資料に沿って報告いただいた。

### ＜質疑＞

特にご意見等なし。

### 協議事項（3）堀兼地区デマンドバスの運行継続について

#### <概要>

堀兼地区デマンドバスの運行継続について資料に沿って提案し、賛成多数で承認された。令和7年10月以降の運行継続に向けて必要な手続きを進めていくこととなった。

#### <質疑>

委員 デマンドバスが交通弱者にとって有効であることはわかったが、車椅子を利用しての方については1人では乗車できない現状がある。その現状を認識していただき、誰でも利用できるように車両の形状を変えるなど、デマンドバスのあり方を検討してもらえるのか。

事務局 現状では介助者と同乗いただき、車椅子を折りたたんでご利用いただけることとなっている。今後利用状況を注視しながら、車椅子を利用したまま乗車いただける車両の導入も検討する。

委員 介助者が同乗すれば利用できるということにはなっているが、実際には現在の車両の高さでは、障害の程度によって介助者がいても利用できない方がいることを理解してほしい。こうした現状を踏まえて改善してほしい。

事務局 福祉分野とも連携して検討していきたい。

委員 本格運行ではなく運行継続としているが、言葉の違いを教えてください。また、目標収支率を20%に変更しているが、20%に達しなければ本格運行への移行や他地区の展開はしないのか。収支率にこだわる理由についても説明してほしい。

事務局 運行目的は達成しているものの収支率に課題が残る中で、引き続き収支改善に取り組んでいくことから運行継続という表記にした。収支率20%についてはあくまで目標値として設定しており、その達成状況だけで運行の是非を判断するわけではなく、評価検証するうえでの1つの指標として考えている。収支率にこだわる理由については、地域主体で取り組んでいる中で、デマンドバスを持続可能な取り組みとするための指標として重視しているためである。

委員 実証運行を継続するのか、4条運行になるので本格運行として継続するのか。

事務局 4条許可に移行して、運行を継続する。法的には実証と本格について明確な規定はないこと、目標収支率を達成できていない中で引き続き見直しが必要であることから、運行を継続するという整理をしている。

委員 収支率の見直しについて、資料では車両1台体制にすることで収支率が18.9%となると試算している。目標収支率20%との差である1.1%はオペレーションセンターの縮小に取り組むことで達成することを見込んでいるものと思うが、根拠はあるのか。

事務局 オペレーションセンターの縮小により、センター運営経費が削減できる。極端に言えば、電話予約を廃止してWEB予約に完全移行すればセンター運営経費は0円となるが、高齢者の利用が多く電話予約が9割となっている現状では、すぐに取り組むことは難しいと考えている。そのため、現時点ではオペレーションセンターの縮小により収支率を1.1%上昇させるという具体的な取り組みや試算をしているわけではないが、目標収支率20%の達成を目指すために今後そうしたことに取り組むことを検討している。

委員 高齢者の利用者が74%で、病院や買物で利用している。高齢者が外出することで、健康増進にも寄与し医療費の削減も期待できる。車両1台体制とすることも良い対策だと思う。利用は増加傾向にあり、PRを続けることで今後も増えていくと思う。また、利用が増えることで収支改善できる。今後も継続していくのが良いと思う。

#### **協議事項（４）狭山市地域公共交通計画（素案）の修正について**

##### **<概要>**

狭山市地域公共交通計画（素案）について、前回協議会での委員からの指摘及びほりかねデマンドバス運行継続を踏まえた修正の説明を行った。修正した素案を狭山市地域公共交通計画（案）として今後政策決定等の手続きを進めていくことが、賛成多数により承認された。

##### **<質疑>**

委員 路線バス事業について少しお話したい。2024年4月からのいわゆる改善基準告示の変更により、運転手の働ける時間に制約が出ており、また、勤務インターバルの設定についても厳しくなった。全国的に労働者不足で、運転要員については採用予定数が取れず、退職者数も多くなっている。近隣の大手バス事業者も非常に厳しい状況で、コミュニティバスを受けられないと申し出ているところもある。そうした中で、西武バスとしても計画に記載している対象路線についても、すぐにではないかもしれないが整理していかなければ厳しい状況になっている。利用者が少ないわけではない都内の自主運行路線であっても、小型車両の維持が困難なことから廃止を検討している路線もある。西武バスは減便が少ないという言葉をいただいたが、路線バスの維持については非常に厳しいのが実情である。そうした中で、新しい交通手段など様々な輸送手段を絡めながら良い形となるよう

協議していきたい。路線バスの維持という方針はありがたいが、この冬でもインフルエンザやコロナの流行により翌日から急遽減便せざるを得ない状況になるなど、労働力不足は深刻である。事業としては頑張っていくつもりではあるが、収支の面だけでなく、要員面で事業の継続が非常に厳しい状況に各社がなっている。今後も色々相談をしなければいけない場面が出てくると思うが、こうした状況をご理解いただきたい。この協議会でも状況を共有させていただき、協議をしていきたい。

会 長 表現として配慮してほしいといった要望はあるか。

委 員 計画を策定した後も、計画に記載された路線についても縮小せざるを得なくなる可能性があることはご理解いただきたい。

～ 副会長挨拶により閉会 ～

### 配布資料等一覧

- 次第
- 座席表
- 狭山市地域公共交通活性化協議会委員名簿
- 資料 1 狭山市地域公共交通計画（素案）に係るパブリックコメント意見と市の考え方
- 資料 1 参考 パブリックコメント 意見と市の考え方（まとめ）
- 資料 2 ほりかねデマンドバスの評価検証（2年目）について
- 資料 3 堀兼地区デマンドバスの運行継続について
- 資料 4 狭山市地域公共交通計画（素案）